

原発のデメリットは？

放射能で健康影響

KiKK研究の対象となった行政区と16カ所の原発

※16カ所の原発はすべて旧西ドイツに分布している

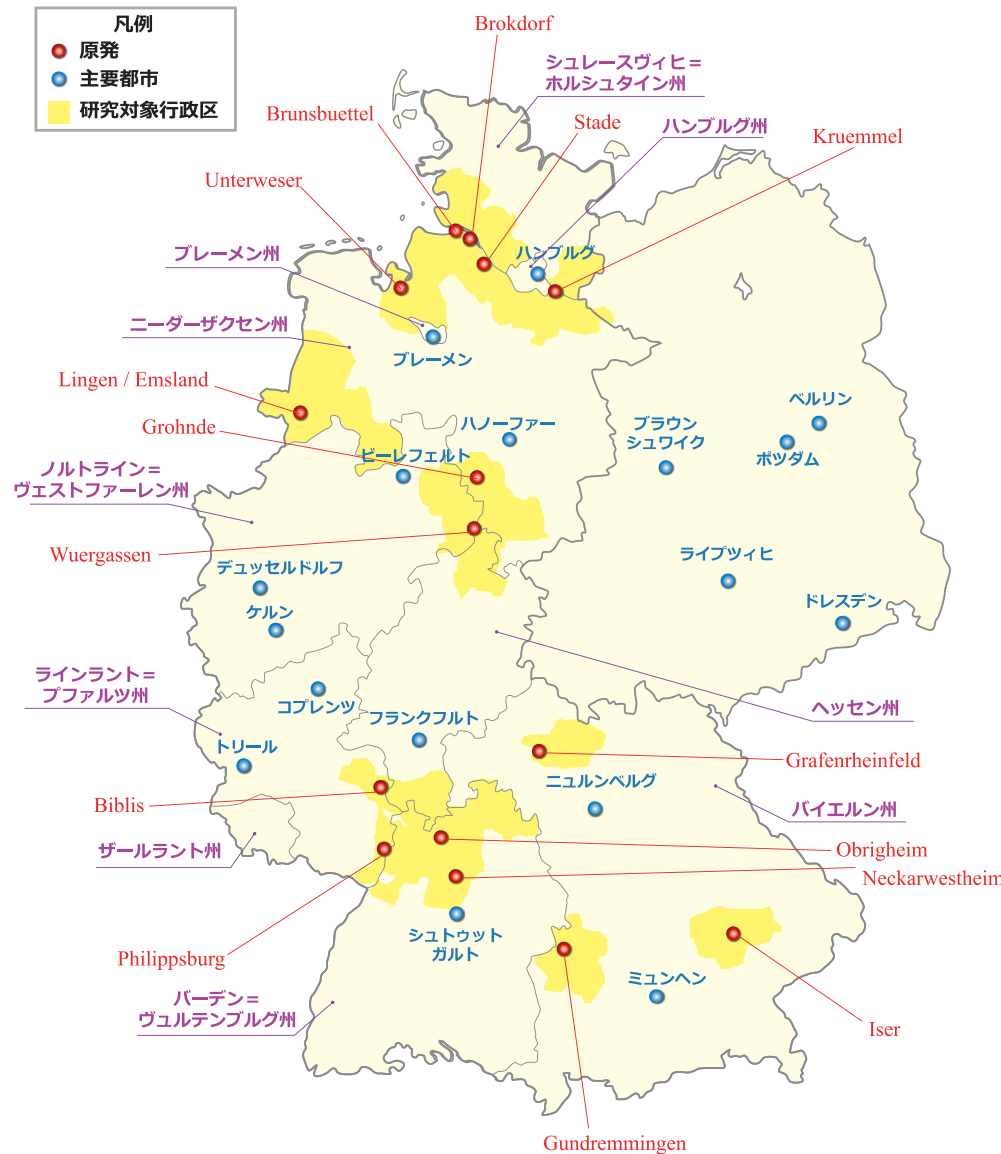


Table1 2つの距離層推定オッズ比 (OR) 全白血病及び診断サブグループ別 片側信頼区間 (CI)95% - 下限値

	オッズ比 (OR)	95% 信頼区間 下限値	発症数
全白血病			
≤ 5 km vs > 5-km zone	2.19*2	1.51	37
≤ 10 km vs > 10-km zone	1.33*2	1.06	95
急性リンパ芽球性白血病			
≤ 5 km vs > 5-km zone	1.98*2	1.33	30
≤ 10 km vs > 10-km zone	1.34*2	1.05	84
急性			
≤ 5 km vs > 5-km zone	3.88*2	1.47	7
≤ 10 km vs > 10-km zone	1.3	0.66	10

注：対象はドイツ小児性がん登録に登録された5歳未満の子ども。
 *2：片側5%で有意

【資料出典】 <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC2696975/>

原発は事故を起こせば環境に大量の放射能を放出し、私たちの命や健康を脅かすことは見たとおりですが、事故を起こさなければ放射能を出さないのか、といえばそうではありません。パネルの「原発のメリットは？：CO2を出さないクリーンなエネルギー？」で見た通り、通常運転でも大量の放射能を環境に放出しています。**通常運転で環境に放射能を放出しない原発は、いまだ建設されていないのが現状です。**

それでは通常運転で環境に放出する放射能で、実際に健康被害は生じているのでしょうか。原発を推進する人たち（例えば電気事業連合会）も通常運転で大量に放射能を放出していること自体は否定していません。ただし、認めつつも「健康に害がないほど微量」と説明します。これはホントなのでしょうか？

- 原発の通常運転で健康被害が生じているという研究やデータは世界的にみれば、カナダ・オンタリオ州のトリチウム健康被害、アメリカ、ドイツ、イギリスなど原発先進国で数多く見られます。
- ここではドイツ連邦政府が国家的事業として調査研究した KiKK 研究を見てみましょう。
- ドイツでは図のように16箇所の原発がありました。ドイツ連邦政府は各原発からの距離ごとの小児性白血病の発生具合を調べました。
- そうすると**5歳未満の子どもたちについて原発から5km圏内では有意に小児性白血病が発症していることがわかりました。**
- 通常運転の原発から放出される様々な放射能で放射線感受性の高い小児に病気を生じさせていたのです。**(ただし原発を推進する人たちは、この研究の結論は正しくない、と主張しています。議論はまだまだ続いています。)**